



関西エアポート 新たな環境計画（環境ビジョン2050・環境目標2030）を策定

～公共インフラである空港の運営を通じて、持続可能な社会の実現に貢献します～

関西エアポートグループは、関西3空港（関西国際空港、大阪国際空港、神戸空港）において、環境負荷低減に向けた新たな環境計画を2023年4月よりスタートすることをお知らせします。

関西エアポートグループでは、これまでも運営する3空港において、環境負荷低減に向けた取り組みを積極的に行ってきました。「環境ビジョン2050」「環境目標2030」は、脱炭素をはじめとした地球規模での環境問題解決の重要性を再認識し、これまでの計画を引き継ぐだけでなく、さらに発展させて策定したものです。「脱炭素」「循環経済」「環境共生」を3つの軸として、長期的にめざす姿と、その上でマイルストーンとなる2030年の具体的な目標を設定しています。

関西エアポートグループは、全社一丸となって環境負荷低減に向けた取り組みを推進し、公共インフラである空港の運営を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

新計画の主なポイント

- 温室効果ガスに対するだけでなく、資源循環、環境監視および生物多様性にもアプローチするトータルマネジメント
- 関西エアポートグループが直接関与するScope3を含む温室効果ガス排出量削減ビジョン
- 2030年度のScope1,2温室効果ガス排出量削減目標の引き上げ（2016年度比40%削減→50%削減へ）
- 廃棄物の資源化率100%をめざすZero Waste Airport ビジョン
- 環境推進体制の強化



(参考)

Scope1：燃料などの燃焼に伴う直接的な排出

Scope2：電気の購入に伴う間接的な排出

Scope3：空港の事業活動に関連する他社からの排出

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
グループコーポレートコミュニケーション部 パブリックリレーション
Tel：072-455-2201

関西エアポートグループは、 脱炭素・循環経済・環境共生の取り組みを推進し、 持続可能な社会の実現に貢献します。



関西エアポートグループでは、「環境理念」「環境基本方針」に基づき、「環境ビジョン2050」を策定しています。さらに環境ビジョンのもと、2030年度に向けた取り組み目標となる「環境目標2030」を掲げています。

環境理念

私たち関西エアポートグループは、地球規模での環境問題解決の重要性を認識し、公共インフラである空港の運営を通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。

環境基本方針

- ・ グループ社員一人ひとりが、日々の業務において地球環境の保全に努めます。
- ・ 事業活動に伴う環境負荷を明確にし、低減に向けた目標を設定して積極的に取り組みます。
- ・ 定期的に取り組みの進捗確認を行い、内容の改善に努めます。
- ・ 空港分野において先駆的な役割を果たします。さらに航空分野を含む空港全体の負荷低減にも貢献します。
- ・ 空港や地域に関わる全てのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションに努めます。

環境マネジメント

● 環境推進体制

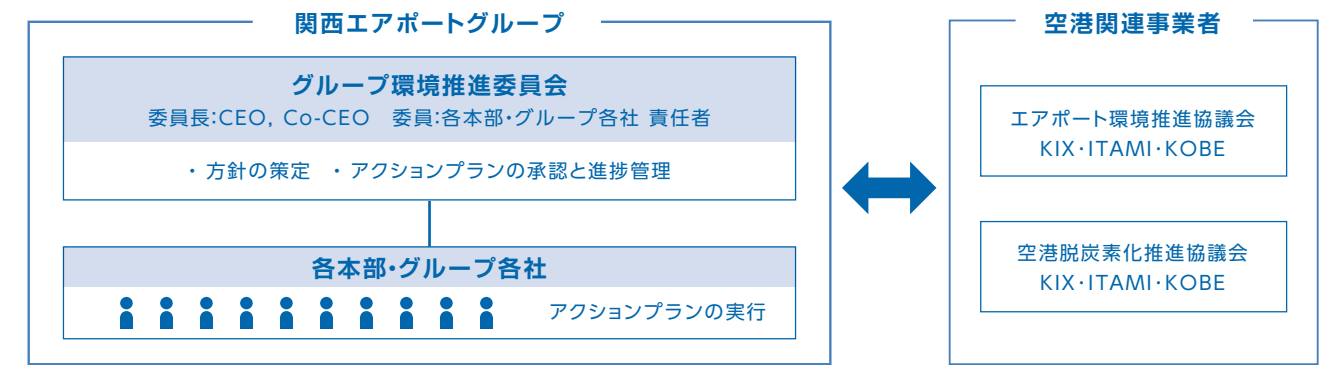
関西エアポートグループでは、グループ一丸となって環境活動を推進するため、環境推進体制を構築しています。各本部やグループ会社の責任者で構成されるグループ環境推進委員会(委員長:CEO、Co-CEO)のもと、各本部・グループ各社はそれぞれ策定したアクションプランを実行し、定期的に評価や報告を行い、取り組み改善につなげています。また、3空港のエアポート環境推進協議会や、空港の設置管理者が設置する空港脱炭素化推進協議会を通じて空港関連事業者と協力しながら取り組みを推進しています。

● 意識啓発

社員一人ひとりが自己研鑽に努め、日々の業務において環境の取り組みを推進する風土を醸成するために、全社員を対象に環境研修を実施します。

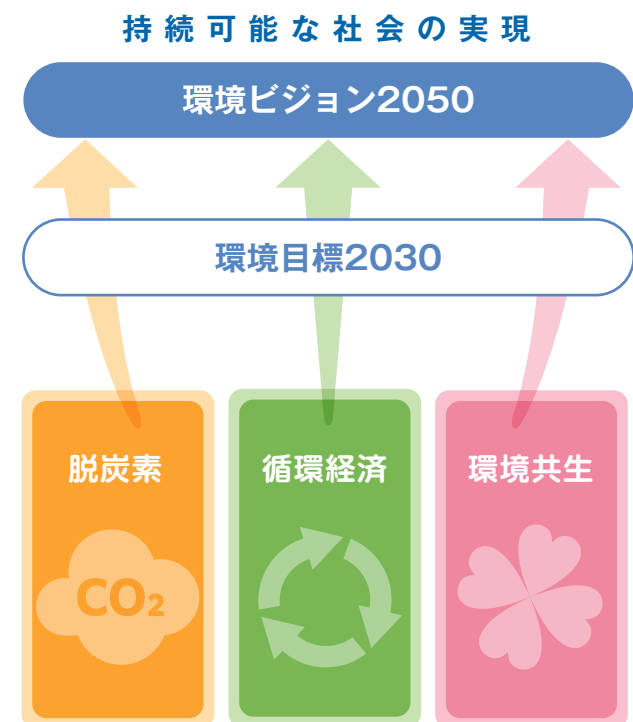
● 認証取得

第三者検証を活用し、目標との整合を図りながら達成状況をレビューします。



環境ビジョン2050・環境目標2030

気候変動やエネルギー・資源の枯渇などさまざまな環境問題が深刻化しています。関西エアポートグループは、空港運営を通じて、脱炭素社会、循環型社会、及び自然や地域社会との調和による環境共生社会の実現に貢献します。「環境ビジョン2050」では関西エアポートグループが長期的にめざす姿を、「環境目標2030」ではその達成に向けたマイルストーンとなる具体的な目標を設定しています。



脱炭素	循環経済	環境共生
<p>環境ビジョン2050</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 関西エアポートグループの事業活動に伴う温室効果ガス排出量実質ゼロ ■ 空港関連事業者を含む、空港全体の温室効果ガス排出量削減への貢献 	<p>Zero Waste Airport</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 徹底的な削減・分別・リサイクル ▷ 資源化率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 空港周辺の健全な生活環境の確保 <ul style="list-style-type: none"> ▷ 航空機騒音、周辺環境の監視 ■ 自然との共生 <ul style="list-style-type: none"> ▷ 水資源の効率的な利用 ▷ 水環境・土壌環境の保全 ▷ 健全な生態系確保への貢献
<p>環境目標2030</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 関西エアポートグループの温室効果ガス排出量を2016年度比50%削減 <p>主要な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーの推進 再生可能エネルギー・水素の利活用 Zero Emission Vehicleの導入推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 空港全体の廃棄物焼却量を2016年度レベルより増加させない ■ 関西エアポートグループの使い捨てプラスチック使用量を2016年度比30%削減 <p>主要な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した素材の使用 プラスチックの削減・素材の転換・水平リサイクル 可燃ごみの更なる削減・分別・リサイクル推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 適切かつ着実に、周辺環境の監視を継続 ■ 空港全体の水の総使用量を2016年度レベルより増加させない ■ 関西エアポートグループの上水使用量を2016年度比15%削減 ■ 生物多様性の保全 <p>主要な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 航空機騒音をはじめとする周辺環境の監視 中水(再生水・雨水)の積極的な活用と節水オペレーションの強化 豊かな藻場環境の維持



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックスグループについて

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では法人金融、産業/ICT機器、環境エネルギー、自動車関連、不動産関連、事業投資・コンサルティング、銀行、生命保険など多角的に事業を展開しています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界約30カ国・地域に拠点を設け、グローバルに活動しています。

今後も、常に新しい価値を創造する強みと専門性を生かし、<オリックス>という完成形のない独自のビジネスモデルを基に、企業や人々に活力をもたらす企業活動を通じて社会に貢献してまいります。

詳細は <https://www.orix.co.jp/grp/> をご覧ください。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、欧州、アジア、南北アメリカ大陸の12カ国において65以上の空港を運営しています。総合インテグレーターとしてのノウハウを駆使して空港の開発、資金調達、建設、運営を行うとともに、その投資能力と専門知識を活かした空港運営の最適化、施設改修、環境経営推進に取り組んでいます。

ネットワーク全体で2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするため、2016年から他の空港運営事業者に先駆けて国際的な環境戦略を展開しています。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニックホールディングス株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構